

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月12日実施)	総合評価（3月31日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	○柔軟で多様な学びのシステムを活かした教育活動を推進する。 ○学ぶ大切さと、学ぶ楽しさを経験させる。	①教育課程を適切に運用し、柔軟で多様な学びのシステムの有効活用を目指す。 ②課程間で連携しながら、1人1台端末の利活用を促進し、学ぶ大切さと、学ぶ楽しさを経験させる授業を研究する。	① 課程間併修等の柔軟で多様な学びのシステムの有効的な活用について検討する。 ②課程や教科を超えて情報共有を行い、学ぶ大切さと、学ぶ楽しさを経験させる授業研究の推進、授業環境の整備を行う。	①教育課程の適切な運用ができたか。課程間併修等の有効的な活用ができたか。 ②課程や教科を超えて情報共有を行い、持続可能な授業改善に組織的に取り組むことができたか。	①多様な学習ニーズに対応した柔軟で質の高い学びの実現に向けて、通信制の課程や同時双方向オンライン授業を活用した個別学習支援制度の運用を検討し、三課程の教務内規を改訂した。 ②「学ぶ大切さと、楽しさを感じさせる授業の工夫」をテーマに、三課程合同授業研究会を実施し、授業の在り方や1人1台端末の活用に関して、各教科で議論を重ねることができた。	①引き続き、三課程で協働し、柔軟で多様な学びのシステムを活かした運用を行う。生徒が抱える多様な課題に対応するため、より有効な活用方法を検討していく必要がある。 ②課程を超えた情報共有は行えたが、教科を超えた共有は少なかったと感じる。 次年度に向け、授業研究の形態について議論を重ねたい。	①多様な学びのシステムを有効に運用してほしい。 ②公開授業研究会はいい企画ではあるが、各課程で実情が違うので、まず、各課程で行った後で全体でもまとめるということいいのではないか。また、テーマや実例を上げて実施するといったのではないかと思う	①個別学習支援制度において、各課程の状況やより柔軟な運用方法について協議・共有できた。来年度以降も三課程で協働しながら、柔軟で多様な学びのシステムを活かす具体的な方法を運用・検討していく必要がある。 ②三課程合同の授業研究会を実施し、概ねテーマを深める内容となった。一方で、教科間の共有が少なかったという認識もある。	①生徒が抱える多様な課題に教員が適切に対応していくため、三課程間で積極的に情報共有を図り、個別学習支援制度のわかりやすい運用を目指す。また、教育課程のあり方についても検討を進める。 ②授業研究会だけでなく、互観週間等も活用し、課程・教科を超えた情報交換・授業改善を行う。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	○誰もが自分らしく過ごせる安全・安心な学習環境を実現する。 ○生徒の主体的な活動を充実させ、協働する力と自己肯定感を養う。	①安全・安心な学校生活を目指すと同時に、教育相談と支援体制の充実を図る。 ②命を大切にする意識を高める。 ③ 学校行事等を通して、他者と協働する姿勢や社会性を育み、生徒一人ひとりの自己肯定感を養う。	①職員間での生徒情報の共有を図るとともに、SC・SSWの活用を促す。 ②命を大切にする教育を充実させる。 ③生徒会役員や各種委員会の委員が中心となって各行事を企画・運営し、生徒一人ひとりの主体的な活動を実現する。	①生徒情報の共有と SC・SSW の活用がうまく行われたか。 ②命を大切にする取り組みが進んだか。 ③各行事等に、生徒会役員や委員会の委員が中心となって企画や運営に積極的に関わることもできたのか。またその結果、生徒一人ひとりが主体的な活動を実現できたか。	①年次会やケース会議を活用して、適切に情報共有をすることができた。また、生徒指導においては、職員が連携して粘り強く生徒対応し、保護者の理解を得ることができた。 ②生徒・職員に向けて講師を招いて自殺対策の講義を開催するなど、自他の命との向き合い方を学ぶことができた。 ③スポーツ大会やSEINAN祭等において、生徒会役員や委員会の生徒を中心に企画・立案し、当日の運営も生徒中心に図ることができた。	①サポートドックを活用してSSWに繋いだが、支援を必要としている生徒・家庭に対してより積極的かつ予防的な方策が求められる。 ②フードバンクを必要としている生徒への支援をより一層充実していきたい。 ③次年度以降、生徒会や委員会の生徒同士の連携を図る機会を増やすことで、より生徒の活動が活発的になり、協働する姿勢や社会性を育む契機としていきたい。	①後期などに生徒の足が学校から遠のく傾向があるので、学校に引き寄せる方策や、部活動の活性化などが必要ではないか。 ②コロナ以降生徒会の活動が活発化してるのはよいことだ。近隣の小学校や地域の自治体の行事などにも参加するとさらに生徒の協働意識の向上につながるのではないか。特に、近隣自治会にもっと学校のことを広報してやっていることを認知してもらう必要がある。 ②三課程が綿密に情報を共有して共通の課題を把握、解決するための努力が見えてよかった。	①穏やかに学校生活を送る生徒が増えており、生徒と教職員とは望ましい関係を構築することができているといえる。 ②一人で悩まずに相談することができるという雰囲気や定時制全体で醸成することができた。 ③生徒会や委員会活動を通じて、生徒主体の活動が図れたと感じる一方で、その枠組みを超えての連携・協働する機会はまだ少なかったようにも感じた。	①毎年のことであるが、年度当初に学校のルールに馴染まない新入生がいるので、早期の対応が必要である。 ②クラスユナイテッド等、教職員が協力して生徒対応にあたるように制度と運用を深化させていく。人権研修会等で意識を高める。 ③生徒活動の場で生徒同士が連携する機会や枠組みをつくり、また学年行事などの場で、生徒がより広範にわたって活動できる場を提供する。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月12日実施)	総合評価（3月31日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	○高校生活の意義を明確化し、キャリアを適切に形成していくための支援を行う。 ○複雑化する進路選択に対応しうる相談体制を構築し、進路希望を実現する。	①三課程共同で複雑化する進路指導における課題の発見と集約、課題解決方法を策定する。 ②早期における自己の将来設計を通して、生徒一人一人が日々の学習や活動に意欲的に取り組めるよう支援する。	①生徒の多様化に伴い、支援も多様性を必要としている。専門機関へのあっせん等職員間で綿密な情報共有を行う。 ②キャリア教育を通して日本の就労事情や将来の変化まで見通せる視野を養う。	①就労準備支援事業所や若者サポートステーション、職業訓練校など、各施設の情報を職員に共有することが出来たか。 ②テーマ研究や職業科の授業を通して、生徒の職業観を養うことが出来たか。	①生徒の多様なニーズに対して、情報を共有し、生徒の進路決定にいかしていくことが出来た。 ②職員間のコミュニケーションを重視することによって授業内容を充実させ、生徒の職業観、職業意識を促進することが出来た。	①最終学年の進路指導では、担任と生徒が進めていくことが主になり、ブラックボックス化しがちである。チームで指導に当たる意識を共有していくことが今後の課題である。 ②体系的な計画を改めて見直し、長い期間働けるカリキュラムを構築していきたい。	①働く事を意識したキャリア教育が必要ではないか。また、インターンシップが重要だが、実際には就業につながっていないことが残念だ。また、進路座談会はいい試みだ。進路が決定した生徒の話は有効だ。 ②他課程の進路行事に参加することは刺激があっていい試みだ。生徒と先生はグーグルクラスルームで繋がっているようだが、保護者が先生とが繋がっていないので、新たな方策を考えて欲しい。	①卒業予定者のほぼ全員が進路を決定できたのは大きな成果である。進路活動を始めるのが遅くなる生徒への指導が課題である。 ②職員間のコミュニケーションを密にして、チームでの進路指導を引き続き推進することが必要である。	①さらなる情報共有と協働による進路支援の深化を目指すとともに、社会情勢に適した進路先の職員間での共有をしていく。 ②進路先でいかに活躍し、重要な人材として貢献していくかを念頭に進路学習を考えていく。
4	地域等との協働	○社会に開かれた教育課程の実現に向けて、地域と連携した教育活動を推進する。 ○学校の魅力・特色の校外への情報発信を推進する。	① 地域貢献活動を推進し、地域への情報発信を行うとともに、地域との相互理解を深める。 ② 定時制の魅力や特色を効果的に発信する。	① クリーンウォーク等の地域連携活動を通して、地域へ学校の教育活動を発信し、連携を深める。 ② 課程間で連携しながら、ホームページ等の情報発信の場や説明会等の充実を図る。	① クリーンウォーク等の地域連携活動を実施し、地域への学校の教育活動を発信し、連携を深めることができたか。 ② ホームページ等の情報発信の場を充実させ、説明会等の行事を三課程で連携しながら取り組めたか。	① 9月に予定していたクリーンウォークでは、地域へ事前に情報を発信し、自治会等で周知してもらう機会を設けていただくことができた。 ②HP 上の学校紹介動画や定時制トピックスを更新し、魅力の発信に努めた。結果として、9月の体験プログラムでは約70名の方に来校いただいた。	① 天候の影響で9月のクリーンウォークは実施できなかった。天候に左右されず、地域貢献活動が実施できる方法も模索していきたい。 ②HP の構成について、整理しきれていない部分がある。内容を精査し、外部の方にとって見やすいHP を目指す。	①学校防災についてももっと近隣自治会などにも広報することが大切。学校が何をやっているか分かることが、自治会との連携につながる。 ②ICTの活用はすすんでいる半面、リテラシーに不安を覚える。しっかりと教えることが必要だ。	①クリーンウォークの実施にあたって、地域へ事前に情報発信をすることでできたが、この機会のみに留まってしまった。 ②年間通して、学校説明会の情報や学校行事の様子などを掲載し、こまめな更新に努めた。HPの構成や見やすさについて、三課程で調整していく必要がある。	① 地域の相互理解をより深め、可能であれば地域の活動にも学校や生徒が関わる機会をつくっていく。 ②三課程のHP 担当者のグループチャットを作成し、こまめな情報交換を行い、調整する。
5	学校管理 学校運営	○生徒が安全・安心に学校生活を送れるように教育環境を整備する。 ○教員の働き方改革をさらに進め、教育活動の充実につなげる。	① 防災に関するマニュアルの点検・見直しを行って、地域と協働した防災活動を推進する。 ② 学校の特色を生かしつつ効率化や職場環境改善を進める。	①危機管理マニュアルを策定するとともに厚木市・近隣自治会と連携・協議して地域防災活動を推進する。 ②衛生委員会等を活用し働きやすい環境づくりを検討する。	① 危機管理マニュアルの策定は進んだか。地域防災活動との連携は進んだか。 ②働きやすさが向上したか。	①地域の実情に応じた危機管理マニュアルの策定を進めた。近隣自治体との連携と協議の機会を設けることができなかった。 ②ストレスチェックを行った。また、衛生委員会が中心となり、働き方改革と業務改善に関するアンケートを実施し、職場環境改善や業務の効率化が進んだ。	①近隣自治会との連携・協議の方法を学校側から積極的に提案することが必要となる。 ②アンケートの回答率の向上と、アンケート結果の活用を推進したい。	①災害はいつ起こるか予想できないので、万全な体制を整えておいてほしい。 ②衛生委員会の活動、日頃の繋がりの中で互いに声を出せることはよりよい学校づくりにつながる。	①危機管理マニュアルの見直しを行った。その中で蘇生ガイドラインを最新版に変更するなど、掲載されている情報を最新のものと更新した。現状に見合った更新が必要である。 ②ストレスチェックを行った。また、衛生委員会が中心となり、働き方改革と業務改善に関するアンケートを実施した。	①掲載されている情報を最新のものと更新し続ける。そして現状に見合った更新の見直しが必要である。 ②アンケートの回答率の向上と、アンケート結果の活用を推進したい。働き方改革と業務改善を中心に、職場環境改善や業務の効率化を進める。